



そうだ、お米を作ろう。

どんどん上がるお米やお野菜の値段。家庭菜園、ベランダ栽培、水耕栽培等家庭でできる食費節約術は数あれど、思い立ってお米を作ろうとする人はほとんどいないと思います。実際、私自身も祖母から受け継いだ畑で野菜は育てていますが、田んぼまで手を出そうとは思えない…。しかし、自然体験や生活科の学習においてはお米作りって結構メジャーで人気の高い取り組み。バケツやトライで簡易田んぼを作ったり、地域の方に田んぼをお借りして年間通して稲作を学んだりいろいろな方法があります。「お米を作る」とひとことで表すことができますが、細かく工程を分けると田植え、草引き、稲刈り、脱穀、精米などなど数多くの工程があるので幼児期の子から小中学生まで幅広い年代で楽しめるプログラムですもんね。今回は5月から10月にかけて続いていたお米作りのプログラムから田植えと稲刈りについてのおはなし。

5月 にゆるにゆる田植え祭り

まだ少し風がひんやりする5月に預かり自然体験diveの活動で田植えに挑戦。農家さんに田んぼの一角をお借りし、年間通してサポートしていただきます。この日集まった小学生から幼稚園児もメンバーは超活発。田植えは午後からの予定で午前中は春の自然を観察しよう！というプログラムでしたが、カエル探しに夢中になるあまり活動開始1時間

もしないうちにどろんこに…。一応、遊びはじめは靴が汚れないように、服が濡れないように体を田んぼギリギリまでうーんと伸ばしてカエルを捕まえようとしていたんですけどね。もう、一回濡れたり汚れたりするといった意味で「どうでもいいやっ！」ってなってしまうみたいです。土、水、生き物とたっぷりじっくりかかわる経験ってその人の原体験になる部分。「汚れるよ！」「危ないよ！」って言いたくなる気持ちはぐっところえてとことんやりたい思いに寄り添います。



自然の中で遊びながら毎回思うのは子どもたちの遊びに道具やおもちゃなんて必要ないのかもしれないってこと。この日はカエル探しがメインの遊びになっていたのですが、周りのほとんどのお友達が大声を上げながら田

んぼを駆け回る中田んぼのすみっこで黙々とどろんこを丸める子たちが…。お団子作り、おにぎり作り、泥と水の配合を何度も調整して遊んでいると形が作りやすいちょうどいい粘度になる田んぼの土。田植えまでに混ぜ混ぜされていない土は遊びはじめはなんとも言えないドブ臭いにおいがするので「くっさ…」と懸念する子もいるのですが、触れば触るほどイヤなおいが消えていくのがとっても不思議。きっと子どもたちはその感覚を五感をフル活用して体感しているのでしょう、ゾーンに入ったように黙々と土を触り続けていました。



午後になってお待ちかねの田植えがスタート。午前中からたっぷり土に水に親しんだ子どもたちは大人の心配をよそに、抵抗なく裸足や靴下のままズンズン田んぼの中へ。「なんか嫌やな…」と長靴を履いて田んぼに入った子も泥んこに足を取られてからは「長靴ない方が歩けるやん!」と気持ちを切り替えズンズン!「お米の赤ちゃん」こと苗を指でつまんで、農家さんのレクチャー通りスーッと田んぼに手を入れます。グッと田んぼの土に苗を刺せると浮いてこないんだとか。今年の田植えメンバーは超センスがよかったようで、両手に用意していた苗がみるみるうちになくなってきました。田んぼの上から苗の補充係をしていた大人の方がへ口へ口「たびちゃん!早くお米の赤ちゃん投げて!」と言われるがままにアシスタントに専念させてもらいました。この日は予定を大きく上回る面積

の田植えができ感動!収穫をお楽しみに解散となりました。

10月 これ、この前の お米の赤ちゃん?

時は流れてあっという間に10月。猛暑の影響でどうなることかと思っていたお米ですが無事、収穫できるくらいまで育ちました。5月の田植えに参加していたメンバーの中には成長した稲を見て「え、これがこの前のお米のあかちゃんか?」と成長に驚く子も。この日も大人がなにをするまでもなくカエル探しが始まり…稲刈りが終わったばかりの広い田んぼを運動場のようにダイナミックに使い、「どこにそんなに隠れてたん…」と言いたくなるほどのカエルを捕まえてきてくれました。

田植えに限らず染物や火起こし、土遊びなどひとつ大きなプログラムを設定して遊ぶdiveの活動において自由遊びとしての生き物は子どもたちにとってウォーミングアップ兼オリエンテーション、アイスブレイクの役目も果たしているのかもしれないと思う今日この頃。何度かdiveに訪れる子にとっては「今日のフィールドはどんなところかな…」「前に来たここ、前みたいに生き物も残ってるかな…」と遊びを通して確認しているような。初めて参加した子にとっては生き物やスタッフ、友達を介して今日のフィールドに慣れていくような。そのフィールドに生きている生き物に受け入れてもらえる感覚が子どもたちの内面になんらかのいい影響があるといいなと思いながら見守っています。(まあ、全滅させてやる!と言わんばかりにそこにいる生き物を狩りまくっている方々も数名おられますが…)

俺らがやるから! 見てたらいから!

そんなこんなで10月のdiveもカエル探しパーティーをメインに水遊びに発展するというカオス状態からスタート。おいしい、午後から稲刈りをしてくれるのか?と心配になる

ほどの熱中っぷりでした。農業体験系が大人にも子どもにも根強く人気な理由の一つに道具のカッコよさ、物珍しさがあるように思います。ほら、コンバインを熱烈に支持している3歳児男児とか、毎年どこの園にもいるじゃないですか…（経験談）この日も農家さんが「はさかけ」のために鉄パイプや電動ドリルを使いだしたことをきっかけに小学生男子が目の色を変えて飛びついてきて「なんなんそれ！」「やりたいやりたい！次変わって！」と大騒ぎ。



傍にあった稲刈り用の鎌を見つけてさらに気持ちに火が付き、稲刈りモードに切り替わったみたい。その分野特有の道具とか、普段使いそうで使わない道具とか実際のプロが使っているところを見たり、自分が使ってみたりすることでいい意味で印象がガラッとかわりますよね。比較的いろいろな物事がバーチャルで体験できるし、なんなら体験、経験しなくてもいろいろなメディアを通して「知ったつもり」になれてしまう現代っ子たち。昔の道具に感動！でも」それ以前に鎌やドリル、ハンマーなど現代で使われている道具も生で見ても感動！なんだろうな…と思います。ハンマーやのこぎり、薪などはキャンプやアウトドアに馴染みのある子にとっては生で見る機会もありますがそうでもない子たちがこぞっているのは「〇〇（ゲームのタイトル）で見

た！」が多いので。本物に触れる機会ってすごく貴重になってきているんですね。

例にもなく鎌の魅力に取りつかれた小学生男子たち。はじめて握る鎌、押したり引いたりしながらどのポイントに当てると刃ざわりよく鎌が動かせるのか、稲のどの部分を掴むと危険ではないのか、友達同士でどうこう言いあったり、一人黙々と研究したり真剣な表情です。また、軍手を履きながらの作業では素手とは違う感覚。思ったように握れない、手が滑りそうになって怖いなど普段なかなか味わえない感覚に苦戦していた男子たち、お昼休憩でチャージしたパワーをフル活用して稲刈りをしてくれました。好きこそ物の上手なれという言葉通り、興味がある物事に対する成長スピードは目覚ましいもの。あんなにぎこちなくギコギコと手を動かしていた子たちが20分もしないうちにグッと鎌を引いて一振りですべて刈れるようになりました。彼ら曰、上手に刈れた瞬間って何とも言えない爽快感があるんだとか。これってまさに「手ごたえ」ですよ。いいね、いいね、最高だねと褒めればほめるほど彼らのモチベーションがアップ。作業を始めた当初は少し気怠そうだった小学校中、高学年が「俺らで全部刈るから手伝わんでいいで。」「小さい子らは見てたらいいいわ。」とキリッとした表情で伝えてくれたときの頼もしさと言ったら。手ごたえ、達成感、自分はできる！という効力感…机上では得ることができない自然体験ならではの喜びに出会う子どもたちにたっぷり寄り添うことのできた米作りでした。

